

第1回みえの学力向上県民運動推進会議を開催し、三重の子どもたちの学力や学習・生活の状況を踏まえ、子どもたちの学力向上に向けた学校、家庭、地域の取組方策について審議を行いました。

1 日時 平成24年10月15日（月）

2 場所 ホテルグリーンパーク津 伊勢の間（津市羽所町700）

3 内容

（1）推進会議での承認事項

- ・みえの学力向上県民運動推進会議設置要綱が承認され、推進会議の会長には、内田淳正委員（三重大学学長）、副会長には、石原多賀子委員（金沢大学監事）が選出されました。

（2）推進会議で出された主な意見

- ・子どもたちは、失敗を恐れずに主体的に学び、行動する意欲を育むことが大切である。
- ・失敗を恐れる子が多い。失敗から学ぶことは多く、失敗が成長を促す。失敗したときにどう立ち直るのかを教えることを三重県から広めてほしい。
- ・夢を持ってチャレンジすること、目的意識を持って行動をすることが大切である。子どもの夢の実現に向けて手伝いをするのが、教師、大人の役割である。三重県教育ビジョンの理念を各地域で実践してほしい。
- ・わかる授業、楽しい授業につながる授業改善に学校現場は取り組む必要がある。子どもの興味・関心に即し、充実感を得られる楽しい授業づくりが大切である。
- ・子どもたちが自らの目標を達成する喜びを感じることができるよう、大人は、学びと育ちの環境づくりに取り組むことが大切である
- ・子どもたちが、多くの人とかかわり合い、褒め合うことで、自分のことを肯定的に捉えられ、意欲が出てくる。このような心の力を高めていくことが必要である。
- ・目の前の大好きなことに取り組むことが子どもの力になる。創造する力を沸き上がらせる。図書館、博物館等の環境が子どもの学ぶ場となるようにする必要がある。
- ・基本的な生活習慣の確立には家庭が大切である。保護者をはじめみんなで支援して子どもたちに生活習慣、生活リズムを付けていくことが大切である。
- ・学びの習慣としての読書活動の推進が大切である。
- ・大人も読書に親しむことが大切である。
- ・県民運動の進め方として、学校・家庭・地域のそれぞれが当事者意識を持ってしっかりと取組を進めていくことが大切である。
- ・三重の子どものいいところを前面に打ち出して議論することも大切である。強みを伸ばして弱みを引っ張り上げる取組を進める必要がある。